

小論文

広島大学 総合科学部 総合科学科 (文科系) 前期日程

<総括>

試験時間 150分 総解答字数 1200字

- ・評論文で文化論を学習し、一定の思考様式になれている受験生であれば、容易に読解できる資料であった。とはいえ、文章ジャンルが文化人類学や民話、宗教的領域に偏っていたため、こうした領域や文体になじみが薄いあるいはこうした領域・文体を苦手としている受験生にとっては、難しく感じたかもしれない。
- ・近年、資料相互の関連性が把握しづらく、受験生にとっては資料3つを使って論述主題を設定することが難しい出題が続いていたが、今年度の出題は、内容の理解が及べば、ある程度資料を関連づけやすかった。
- ・資料5つのうち、3つが翻訳であった。

<課題文の分析>

大問番号	—
内 容 (主題)	私たちが世界を認識する方法
出 典 (作者)	<p>【資料一】 レザー・アスラン著、白須英子訳『人類はなぜ〈神〉を生み出したのか?』文藝春秋、2020年(2,076字)</p> <p>【資料二】 東畑開人『野の医者には笑う——心の治療とは何か?』誠信書房、2015年(2,208字)</p> <p>【資料三】 小野和子『あいたくて ききたくて 旅にでる』PUMPQUAKES、2019年(2,259字)</p> <p>※引用文出典 日本民話の会『民話の手帖』蒼海出版、1978年</p> <p>【資料四】 ロバート・ムーア著、岩崎晋也訳『トレイルズ 「道」と歩くことの哲学』エイアンドエフ、2018年(2,529字)</p> <p>【資料五】 G・ギアーツ著、吉田禎吾・柳川啓一・中牧弘允・板橋作美訳『文科の解釈学 I』岩波書店、1987年(1,692字)</p>
長短・ 難易等 前年比較	<p>資料総字数 約10,764字</p> <p>長短 (短い・やや短い・変化なし・やや長い・長い)</p> <p>難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p>

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
—	課題文	学部系統的	—	論述	1,200字	5つの資料から3つ以上を選択肢、その内容を踏まえて小論文を作成し、適切な題をつける。

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

<答案作成上のポイント・学習対策等>

- ・設問上でキーワードが与えられなかった。ここ数年、キーワードなしのタイプが続いている。
- ・近年と異なり、資料の組み合わせはさほど困難ではなかった。
- ・小論文一般の対策、直前期の対策のみでは対応力がなかなか身につかない。確実に合格をめざすのであれば、この形式に合わせた対策を、早くから継続しておく必要がある。
- ・様々なテーマについての意見を、あらかじめ固定的に準備しておくことは、有効な対策とはいえない。複数資料を関連つけて主題を設定し、意見を述べる練習を繰り返してほしい。
- ・教員の構成上、文化人類学や社会学、哲学領域の文章が資料として出題されやすい。また、翻訳文もしばしば出題される。過去問を通して読み慣れておこう。